

もう、悩まない！『石原健の HOTEL LOVERS』

～辛い仕事でも目の前の仕事に全力を傾けられる人は、どの職場に行っても通用する～ 『シンプル・イズ・ベスト』常にお客さまの一人ひとりのために何ができるのか追求

かつての熱海の風景とは異なり若者たちで活気あふれる熱海温泉。商店街を通り抜けるとそこには雄大な相模湾が広がり、その景観は東洋のモナコと称されている。その景観と熱海のシンボルである「お宮の松」の正面に、2022 年 9 月 26 日、「熱海パールスターホテル」が誕生した。海が広がる全長 12m のインフィニティバス（温泉）や全室ゆったりとした客室など上質な時間を提供している。そこで今回はホテル経験豊富、ケーキショップの経営実績を持つ松村圭二シェフパティシエにパティシエにかける情熱などをお聞きした。



熱海パールスターホテル
シェフパティシエ
松村 圭二 氏

〒413-0012 静岡県熱海市東海岸町6-45
URL: www.pearlstar.jp

お客さまの笑顔あふれる仕事をしたい

石原 松村シェフパティシエとは同じ歳で、付き合いは私が配ぜん会の学生会長としてアルバイトをしていた「ホテルセンチュリーハイアット」時代に宴会のパティシエとして出会ったことに始まります。約 40

年、ペストリーひと筋で務められているのですが、そもそも、パティシエの道を選ばれた経緯をお聞かせください。

松村 高校時代にファミリーレストランでホールや洗い場の仕事をしていました。そのとき笑顔満面でデザートを食べている姿を見たり、フルーツパフェを作るチャンスがあり、自分が作ったパフェを“楽しそうに食べていたよ”と教えていただきました。このとき笑顔あふれる、こういう仕事をしたいと思い、パティシエの道を選択し、昭和 59 年に「ホテルセンチュリーハイアット」に正社員として入社し、宴会のパティシエとしてケーキ作りをしていました。

石原 その後、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルやハウステンボス JR 全日空ホテルに転職され、パティシエとして研鑽を積まれてきたのですね。

松村 ハウステンボス JR 全日空ホテルはシェフパティシエとして起用され、私自身にとってはまさに“挑戦”でした。ホテルセンチュリーハイアットからヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルへの転職は自分自身の力試しと新しい職場での技術の習得でした。シェフパティシエ以前はスイーツを作ることに専念すれば良かったのですが、シェフパティシエとなると作れることは当たり前のものであり、管理職として数字を読む力が要されます。そこで本を買って数字というものを独学で学びました。

5 年おきの目標を立て、目標に向かって前進

石原 その後、ケーキ屋さんを开店されました。なぜ、独立に踏み切られたのでしょうか。

松村 “石の上にも 3 年”という気持ちで長崎県川棚町に开店しました。それはお客さまと近い距離で直接会話をしてみたいという思いからでした。私のモットーは「シンプル・イズ・ベスト」です。お客さまのために何ができるのか、自分のやりたいことというより、やれることを選択をすることです。そのためにもお客さまの願いをかなえてあげられるように寄り添いたいと思ったのです。また自分自身で 5 年おきの目標を立て、目標達成に向かっていました。始めの 5 年間は基礎を学ぶ、そして次の 5 年間は新たな職場での挑戦、そして次の 5 年間はシェフパティシエになることでした。そして 36 歳で独立開業することになったのです。妻も快く受け入れ応援してくれ、ケーキ屋さんの开店を実現することができたのです。

石原 松村シェフパティシエは配ぜん会時代にとても優しかったです。当時の宴会場のバックは戦場のような雰囲気でしたので、多忙なサービスをする中でミスしてケーキを落としてしまったり、ときにはまちがえてサービスしてしまうスタッフもいました。大半のシェフからはそのミスに対して



厳しい言葉が返ってくるのですが、松村シェフパティシエは“わざとではないのだから”と、怒らずにすぐに代替えのケーキを用意してくれました。いつも笑顔で対応してくれる彼は、周りのスタッフたちをほっこりとした気分させていました。

松村 私自身、“職場にいないてはならない人”ということを心掛けてきました。一方、いなくても仕事が回る仕組みづくりが大切だとも思っています。自分しかできない仕事より、みんなができることの質を上げていくこと、それが信頼となり自分自身のブランドだと思っています。ホテルに来られるお客さまも職場でともに働いている仲間もみな笑顔で仕事ができることが第一だと考えています。若手育成においても大切な人材に残していきたいという思いで取り組んでいます。仕事はまじめにコツコツ積み上げ感性や技術、物事の考え方を学ぶこと、そしてその環境を作ることが私の使命です。

そのためには私自身がほがらか、真面目、正直であること、そして常にお客さまのために何ができるのか考えている姿を見せていくことです。失敗はつきものであり、それに対して叱ることはありません。もちろん、事故につながるようなことがあれば叱ることはありますが、むやみに怒りません。職人の世界だからと言ってトップダウンでは物事はうまくいきません。大切なのは否定しないこと、意見を聞いてあ

げることだと思っています。

入社したら志高く、プライベートの充実を

石原 コツコツに通じる点として趣味は模型づくりでした。

松村 ひたすらに模型を作っています。自分の時間に没頭できるのは幸せです。先日 1 日 3 時間、2 カ月かけて三輪トラックの模型を作り上げました。市販のものを組み立てるだけではなく、荷台のフック部分を切り落として本物に近いカタチに仕上げ、ときには車の中に描いた地図を設定したり、ドアノブもリアルなスタイルにモデルチェンジするなど、細部にわたりこだわっています。また転職で初めての九州時代には右も左も分からない中、バイクでケーキ屋さんやカフェ巡りをしていました。更に師匠の本や歴史小説、人間力を伸ばすような本を読むことでモチベーション維持を図っています。私自身、何事も没頭するタイプですが、これからの世代に向けて、入社したら志高く、そしてプライベートを充実させることが仕事の充実につながることを伝えていきたいですね。

石原 最近はすぐにあきらめてしまう若者が増えています。そうならないためにも、根本的な考え方をもっと伝えていく必要がありますね。

(株)ホスピタリティデザイン 横浜 代表取締役 石原 健氏



URL : <https://www.hospdy.com/>

〈プロフィール〉桜美林大学経済学部卒業／日本ホテルスクール卒業／ホテル産業経営塾卒塾（第一期生）。ホテル センチュリー ハイアット（現ハイアットリージェンシー東京）で 4 年のキャリアを積み、1989（平成元）年、ヨコハマグランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に、第 1 期生として入社。開業後は主にセールスとして活動。39 歳で販売担当部長となり、宿泊、宴会、婚礼、レストラン、イベント等の全ての販売を行なう。国内外からの VIP に対するおもてなしを行ない、4 度にわたる皇室接遇担当の荣誉も授かる。また横浜青年会議所（JCI）のメンバーとしても活動し、2004 年には 100%出席賞を受賞。東日本大震災後、ウェスティンホテル仙台へ赴任、セールス&マーケティング部長として、総支配人の不在時には代行も務め、3 年 2 カ月間復興支援の一端を担う。2014（平成 26）年、(株)ホスピタリティデザイン 横浜 を設立、代表取締役役に就任、現在に至る。厚生労働省 事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会 会長、産業能率大学 兼任教員など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。

松村 限界は自分で決めてしまいます。そうならないためにも、常に挑戦の意欲を持ってほしいと思います。職場で何でもいいから一番になってほしい、雑用と思われる仕事でもその人がいなければ成り立ちません。まじめに取り組むことで、結果的にお客さまの心は動きます。“あの人のサービスを受けにあのホテルへ行こう”と。小事が大事です。辛い仕事でも目の前の仕事に全力を傾けられる人は、どの職場に行っても通用するものだと思います。

石原 おっしゃる通りで、お客さまや仲間のためを思い、ひたすら取り組んでいる姿の蓄積は新たな波を起こします。新たな波という点で、最後に 9 月に開業された「熱海パールスターホテル」での意気込みをお聞かせください。

松村 基本として目指していることは、素材そのものを楽しめるような究極のシンプルスイーツです。素材を見つめ、それぞれの味や香りを存分に生かすことを大切にしながら、お客さまお一人おひとりの想いやニーズにお応えするスイーツをご提案していく姿勢を貫いていきます。またご宿泊者やご来館者に限らず、地域のお住まいの方も気軽にお立ち寄りいただき、記念日などにケーキなどご注文いただけますよう、パティシエ一同、笑顔いっぱいでお客さまのお迎えができればと思います。